

テクニカルショウヨコハマ 2018

近年最大の参加者

神奈川県異業種連携協議会
専務理事 芝 忠

本号の機関誌表紙を飾っている第39回テクニカルショウヨコハマ(工業技術見本市)は、2018年(平成30年)2月7~9日にパシフィコ横浜展示ホールにて開催されたものである。来場者は3日間で合計3万6千人。2004年(平成16年 3万6千人)以降で最大参加者となった。

出展者は昨年の635社・団体より多く、800社・団体で昨年比128%と最高。展示小間数は昨年の468に比べて621と昨年比132.6%とこちらも過去最大となった。今年には展示場の増設工事が行われたこともあり、東京ビッグサイトを除くと交通の便も良く、他県からの出展者

も満足する展示会となった。

当イグレン(神奈川県異業種連携協議会)は3年ぶりに出展、ブースには期間中約200人の来場者があり、大変盛況であった。イグレンの展示ブースは、横の大通り中央に位置した「加工技術」コーナーで大変好立地。まんてんプロジェクトと隣同志であった。

用意した「異業種連携で数多の挑戦を」の企業・団体の合冊カタログ集100冊は全て捌け、名刺受けに入った名刺を含めて芝専務理事の名刺交換が51枚を数えるなど、来場者の多さを示した。

知っている企業を訪問すると、若い2世に代わっているのが印象的だった。確実に世代交代しているのだ。

主な展示内容は以下の通り。

出 展 方 法	会 社 名	展 示 内 容
製品・部品展示	(株) 開 明 製 作 所	超精密加工サンプル 100点
ポスター・カタログ	協立電機工業(株)	大型モータ修理技術
	(株) ト ラ イ ア ス	ネットワーク展開図
	(株)テクノコンサルタント	非破壊杭検査技術
	スターリングエンジン	
	三浦半島経済人サロン	
	(株)ユニメーションシステム	豪雨警戒情報システム
	(株) 試 作 工 房 電	
	(有) 川 田 製 作 所	精密プレス加工金型
紅茶試飲サービス	尾 下 紙 業 (株)	段ボール
	コ ー ジュ (株)	紅茶専門店

出展者が発表出来る「セミナー」は第1日にまんてんプロジェクトとともにイグレンが登場。会場がまんてんブースの真裏と好条件、発表しながら実物は「この真裏にあります」とPR出来て、好都合だった。トップバッターとして児玉理事が「イグレン活動の魅力」を語り、次にテクノコンサルタントの伊藤会長が大分から態々出てきて「非破壊杭検査技術とその応用」を説明、最後に茅ヶ崎の協立電機工業・藤本取締役が「モータ修理の一大革命を目指す」を発表。聴講者も座席いっぱいの30名で質問も多数出た。テクニカルショウ主催者の産業振興センター職員からも「頑張っている。いっぱい良かったね」と感想をもらった。

超精密加工品の展示を行った横浜市旭区の開明製作所は、社員を総動員して他社の展示の見学をさせるなど人材教育の一環として位置付けて頑張った。

相変わらず他県からの出展が多かったが、「横浜はビジネスになる」(長

野県精密加工企業)そうだ。神奈川工業高校電気科の学生1年・2年生が多数歩いていたが、聞けば就職の参考という。中には詳細にメモしていた学生もいた。こういう若い人が展示会や、中小企業に馴染むことは極めて重要だ。学校当局の英断を高く評価したい。

イグレンと協力関係にある石川県ニュービジネス創造化協会も6コマ出展していたが、昨年同様、3カ所に別れていたのが残念、来年は工夫して一緒に展示すべきだろう。内容を一つに絞って申し込めば自然に1カ所にまとめられる。正直に企業別に展示ジャンルを分けてしまうと、バラバラの展示箇所になってしまう。石川県としてまとまった方が展示効果もあるに違いない。来年は研究して欲しい。

始めて設けられた横浜市金沢区の「金沢臨界産業団地」の特設会場では、「臨海LINKAI 横浜金沢」新名称記念のシンポジウムが行われた。横浜市大や関東学院大との連携、あお

ぞらファクトリー構想などが発表され、今後の我々の連携対象として注目した。

初めてイグレンスタッフとして参加した橋本会員も 50 枚の名刺交換をし、イグレンの人脈の広さに感心していた。

第 1 日の夜、主催者による初めての懇親会が行われ満杯だった。イグレン関係は 7 人参加。元東京都立大学の西村教授も飛び入り参加。この企画は継続すべきだ。総じて、天気にも恵まれ大変賑やかだったと言える。主催者も自信を持つべきだ。

芝 忠 (しば ただし)

1942 年生まれ、東京都立大学工学部卒業して、すぐ神奈川県庁に入り、旧工業試験所で研究及び技術支援業務に携わった。1976 年頃から異業種交流を手掛け、1984 年に神奈川県異業種グループ連絡会議(異グ連)を結成して以来事務局を継続して担当。現在イグレン専務理事。